

(仮称) 学習文化交流施設

みんなで文化交流の^{もり}杜をつくる会
ワークショップ報告書

平成 23 年 1 月

目 次

はじめに	1
I. ワークショップの目的	2
II. 検討課題の整理	3
III. 敷地の分析と交流広場について	
1. 敷地の検討	5
2. 交流広場のあり方	7
IV. 市民へのPR活動・施設連携	
1. 市民へのPR	9
2. 施設連携	9
V. 各施設機能	
1. 図書館	11
2. 文化ホール	13
3. 子育て支援施設	15
4. 各施設をつなぎ交流を促す空間	17
VI. 施設の運営と管理	
1. 施設全体の運営について	19
2. 各施設の運営について	
2-1 図書館	21
2-2 文化ホール	22
2-3 子育て支援施設	23
2-4 各施設をつなぎ交流を促す空間	24
VII. まとめ	25
VIII. ワークショップを終えて（アンケートから）・ワークショップ参加者	26

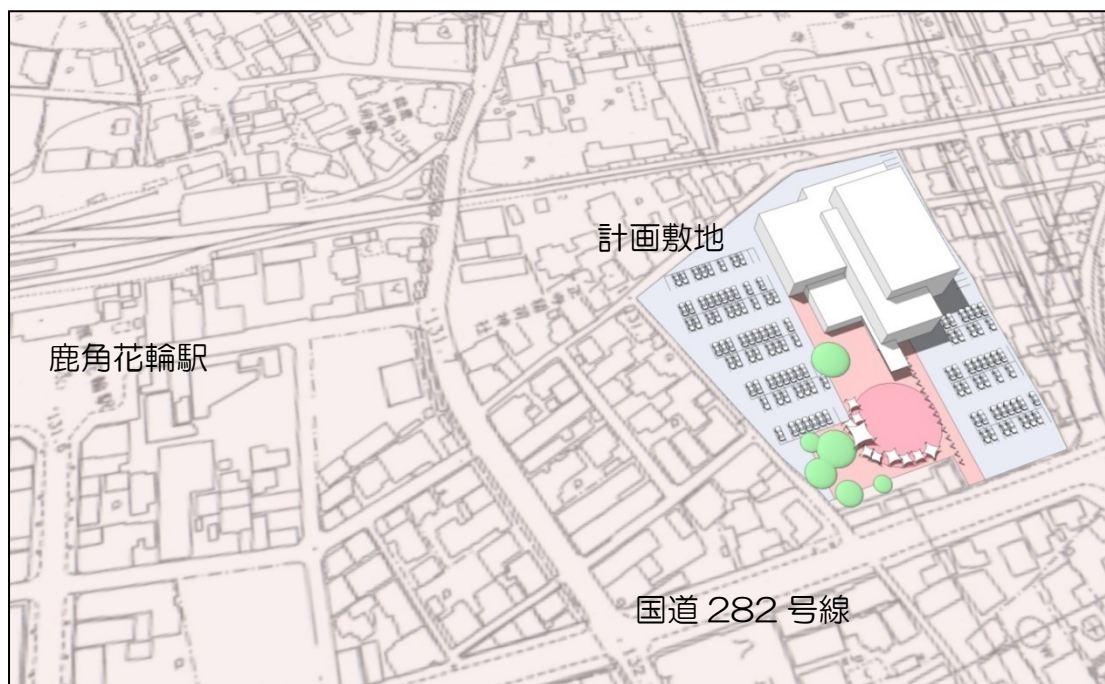
はじめに

鹿角市では平成20年度に中心市街地の目指すべき将来像と活性化の基本方針を定めた「鹿角市まちづくりビジョン」を策定し、その中で鹿角組合総合病院跡地を文化交流拠点に位置づけ、図書館機能、文化創造機能、活動支援機能、交流創出機能の4つの基本的機能からなる複合施設として活用する方針を決定しました。

平成21年度には複合施設の具体的内容を定めた「(仮称)学習文化交流施設基本計画」を策定し、複合施設の基本理念として「つどう、ふれあう、にぎわう、文化交流の^{もり}杜」を掲げ、構成施設を図書館、文化ホール、市民センター、子育て支援施設、交流広場と決定しました。計画の策定にあたっては、市民や関係団体、学識経験者の参画を得た(仮称)学習文化交流施設基本計画検討委員会、またパブリックコメントを経て、広く市民の意見が盛り込まれたものです。

本報告書は、この基本計画書を前提に、4回にわたる市民の参加によるワークショップで得た意見をまとめたもので、参加者から寄せられたたくさんの意見や提案が盛り込まれています。今回のワークショップの目的は、広く市民の皆さんの意見を出していただくことにありましたので、中には相反する内容のものもありますが、どちらかに絞ることなく掲載しています。

今後、この報告書の内容は施設の管理運営基本方針に反映されるほか、施設の設計者を決めるための設計プロポーザル等において、具体的な市民の要望として応募者に示され、基本設計等に反映される予定です。



全体配置のイメージ

*外観はボリュームをイメージしたもので、配置、デザインなどは今後の設計で検討されます。

I. ワークショップの目的

① ワークショップの目的

このワークショップは、計画している(仮称)学習文化交流施設建設にあたり、利用される市民の皆さんのご意見を計画に活かすために行われます。まとめられた提案事項は、市民の皆さんの意見として設計応募者に示されることになっています。

② ワークショップの実施過程

ワークショップは、4回開催され、その主な内容は下図の通りです。

第1回 平成22年10月3日(日) 13:00~16:00 鹿角市交流センター

- 内容
- ワークショップの目的と流れを理解する
 - 計画の概要を知る
 - 検討すべきテーマを洗い出す

第2回 平成22年10月24日(日) 13:00~16:00 花輪市民センター

- 内容
- 現地で計画確認(現地視察)
 - 敷地と建物の大きさを理解する(外部空間の使い方)
 - 外部、内部の交流空間について検討する

第3回 平成22年11月14日(日) 13:00~16:30 鹿角市交流センター

- 内容
- グループ毎のテーマを検討する
- A班 図書館、B班 ホール、C班 子育て支援センター、
D班 各機能を繋ぐスペース

第4回 平成22年11月28日(日) 13:00~16:00 鹿角市役所

- 内容
- 施設全体の管理運営について
 - 各施設の管理運営について
 - 全体のワークショップのまとめ

③ ワークショップの進め方

ワークショップは5~6名を1グループとし、そのうちの1人をまとめ役(ファシリテーター・司会)として進行了ました。グループは年齢に応じて編成され、各グループには、市職員1名、および記録係として大学院生(東北工業大学建築学科)が参加しました。全体のワークショップのコーディネートは東北工業大学工学部建築学科 谷津憲司教授によるものです。

グループ毎に個別のテーマを扱う場合、他のグループの意見はカードに記入し、検討グループに提出してテーマに反映させる方法を取っています。

Ⅱ. 検討課題の整理

ワークショップで出された検討が必要とされる課題は次のように整理することができます。

① 市民の意識

- ・市民の施設に対する理解は十分か？
- ・これからでも意見が反映される余地はあるのか？
- ・市民全体のものにするためには他地域の意見をもっと聞く体制は取られているか？
- ・八幡平、毛馬内、大湯の方にも利用してもらえそうか？
- ・商店街の人たちの意見は反映されているか？
- ・花輪地域と他地域との関係性は考えてあるか？

② 敷地の検討

- ・施設への交通手段はどう考えるか？（公共交通機関の利用、高齢者への配慮など）
- ・国道からのアクセスで、安全対策は十分か？
- ・駐車スペースは十分確保してあるか？（交流広場とのつながり、安全対策）
- ・周辺道路の拡張は考えているか？
- ・周辺住民の理解が得られる内容か？
- ・国道側の住宅取得の可能性は？
- ・緑化はなされるのか、また災害時の避難場所に利用できる配置計画か？

③ 交流広場のあり方

- ・多様な交流が生まれる交流創出機能の内容は？（具体的なイベントの想定）
- ・各施設との連携は？（それぞれの機能とどうつながるのか？）
- ・商店街とのつながりは？
- ・シンボル性をどうつくりあげるのか？
- ・緑を取り込める仕掛けは？

④ 内部施設

- ・図書館（ターゲット、子供のスペース、蔵書増加への対応、電子化対応、IT 環境など）
- ・文化ホール（イベントの想定、座席数、音響効果、ピアノ設置など）
- ・子育て支援施設（既存施設との関係、安全性の確保、子育て世代への配慮、商店街と連携）
- ・その他の施設（ギャラリー、資料館、飲食施設、ビジネス活動支援など）

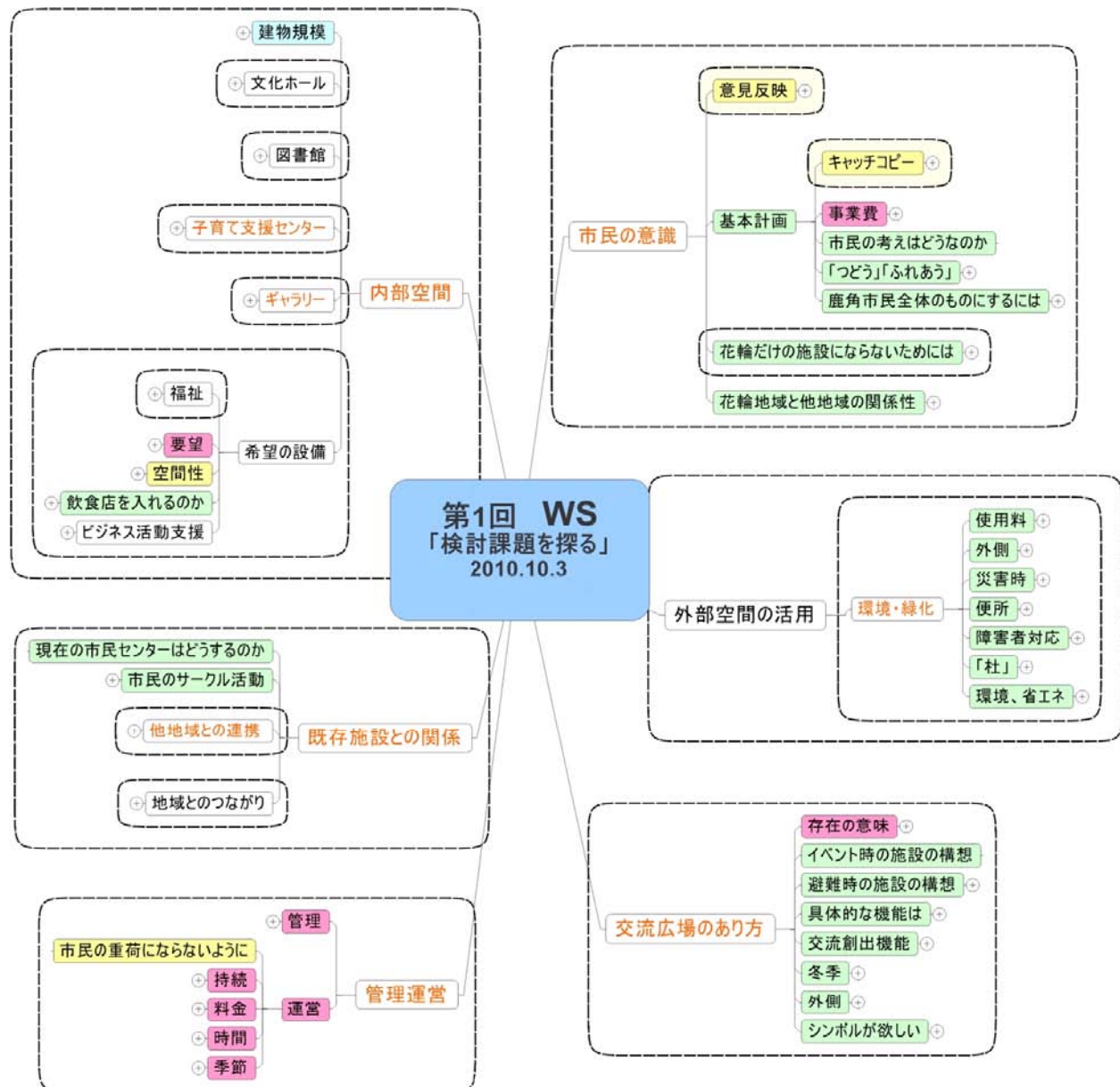
⑤ 市民へのPR・施設連携

- ・他施設との連携をどう考えるか（図書館、市民センター、児童センター、資料館など）
- ・既存市民センターの運営はこれまで通りか？
- ・他地域とのつながり（大湯、十和田地区の人にとってこの施設は？）
- ・商店街との連携（施設建設による波及効果はあるか、商店街の人の意見は？）

⑥ 管理、運営について

- ・全体の管理はどこですか？
- ・市民が関わる体制はつくれるのか？
- ・有料部分と無料部分の使い分けはうまくできるか？
- ・開館時間、利用時間の統一は？（季節による時間の変動は考えられるか？）
- ・市民の重荷にならない方法はあるか？

第1回ワークショップ 検討課題の整理図



Ⅲ. 敷地の分析と交流広場について

1. 敷地の検討

実際に解体工事中の現場で解体業者から説明を受け、現地を視察して感じたことをアンケート用紙に記入してもらいました。その結果は次のようにまとめることができます。

① 活かしたいことは何か

- ・ 近くに駅がある利便性
- ・ 国道に面している利便性
- ・ 商店街との連携（人の流れ・アクセスの良さ、地域の活性化）
- ・ 神社（参道、桜の木、祭り）
- ・ 周辺の景観（遠くに見える山並み、屋上からの展望）
- ・ 地域の行事

② 周辺環境に配慮すべきこと

- ・ 緑地の整備（近くに樹木が少ない）
- ・ 除雪（融雪、除雪車の動線、雪捨て場）
- ・ 周辺住民への配慮（日照、騒音、排気ガス、車の渋滞、プライバシー、防犯、夜間照明など）
- ・ 安全対策

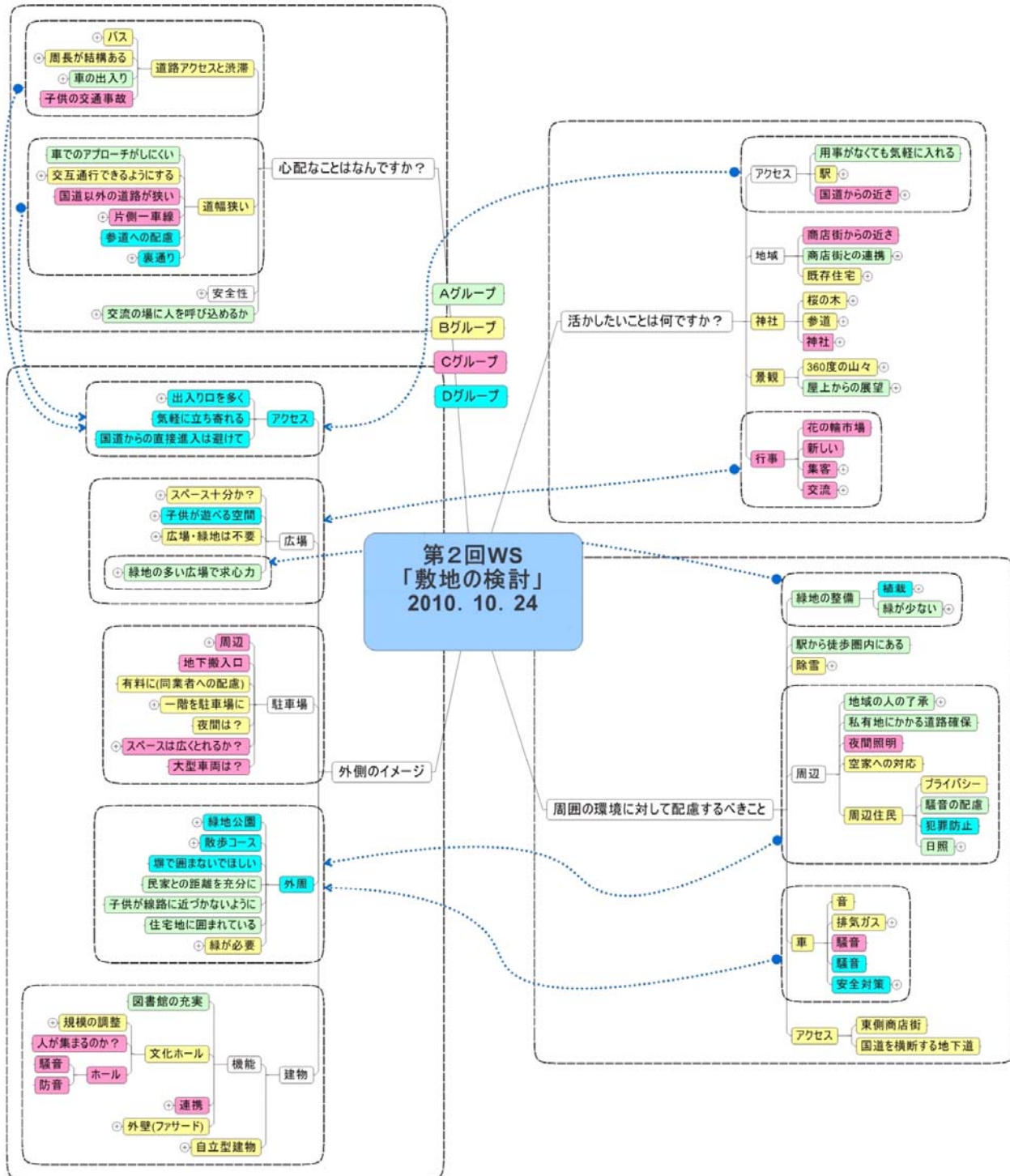
③ 心配なこと

- ・ 国道の車の渋滞（車のアクセス、道路幅の狭さ、見通しの悪さ）
- ・ 商店街との連携
- ・ 建物周辺の環境悪化
- ・ ほんとうに人を呼び込めるか
- ・ 防犯性

④ 施設のイメージ

- ・ 駐車場（広いスペース、アクセスのしやすさ、ピロティ、除雪不要、雨に濡れない）
- ・ 緑地公園的（散歩コース、広い緑地、塀で囲まない）
- ・ 家族で利用できる
- ・ シンボル性（市民の誇り、周囲との調和）
- ・ エコロジカルな建物（太陽光発電など）
- ・ コンクリートは冷たい
- ・ 人が集まれる十分な広さの文化ホール

第2回ワークショップ 敷地に関するアンケート結果整理図



2. 交流広場のあり方

建物の外部と内部の交流広場のあり方について、グループ毎に検討しました。検討の結果は次のようにまとめることができます。

① 外部広場

- ・ ゆったりとした安全な空間
- ・ 幼児から高齢者まで安全に過ごせる。
- ・ イベント（屋外コンサート、フリーマーケット、農産物の直売、花輪ばやし、天体観測会）
- ・ 連続性のある植栽
- ・ 広葉樹（桜、ななかまど、ドングリなど）
- ・ 木陰をつくる（ベンチ、せせらぎ、噴水）
- ・ 芝生（寝転がれる、ピクニック）
- ・ 花壇（1年中鑑賞、手入れされている）
- ・ 建物に匹敵するぐらいの森
- ・ 冬期間利用への配慮
- ・ 管理しやすい計画

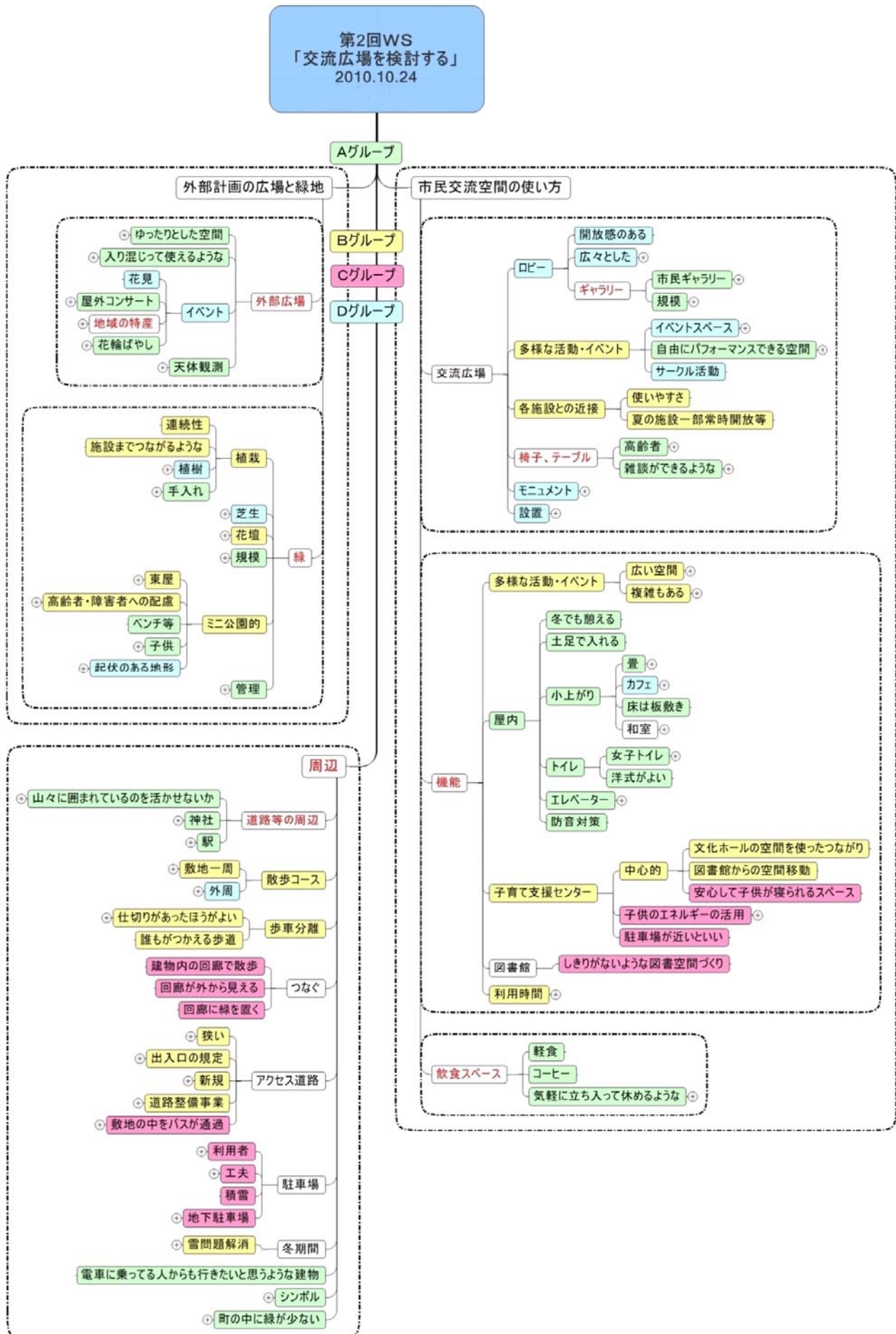
② 内部広場

- ・ 解放感があり、屋外広場が見える
- ・ 市民ギャラリー（気軽に展示できる、絵画、書、歴史資料など）
- ・ 多様な活動（商店街フェア、ミニコンサート、サロンの、サークル活動、パフォーマンス）
- ・ 各施設との連携（使いやすさ、開放的に空間の一体化）
- ・ 冬でも憩える快適な空間
- ・ 小上がりの空間の設置
- ・ 飲食スペースの確保（コーヒー、軽食など）
- ・ 子供が騒いでもいい空間
- ・ 壁の活用（ロッククライミング）
- ・ 家具など（高齢者対応、椅子や机を自由に配置して雑談できるように）
- ・ モニュメント（動きのある空間演出：からくり時計、屋内噴水など）
- ・ その他の設備（掲示板、目安箱、大きなTV、無線LANなど）

③ 敷地周辺

- ・ 町の中に緑が少ない
- ・ 散歩コース（外周を活かす）
- ・ 歩車分離の徹底
- ・ 屋根付きのバス停設置
- ・ 除雪対策（融雪、建物1階を駐車場に）
- ・ 雨に濡れない移動
- ・ 安全アクセス道路（出入り口を明確に）
- ・ シンボル性の確保（他市に誇れる、分かりやすい、列車から見て行きたくなる）
- ・ 回廊で建物をつなぐ
- ・ 神社の参道はどうなる？

第2回ワークショップ 交流広場の検討結果整理図



Ⅳ. 市民へのPR・施設連携

市民へのPRの仕方、施設連携のあり方について、グループ毎に検討しました。検討の結果は次のようにまとめることができます。

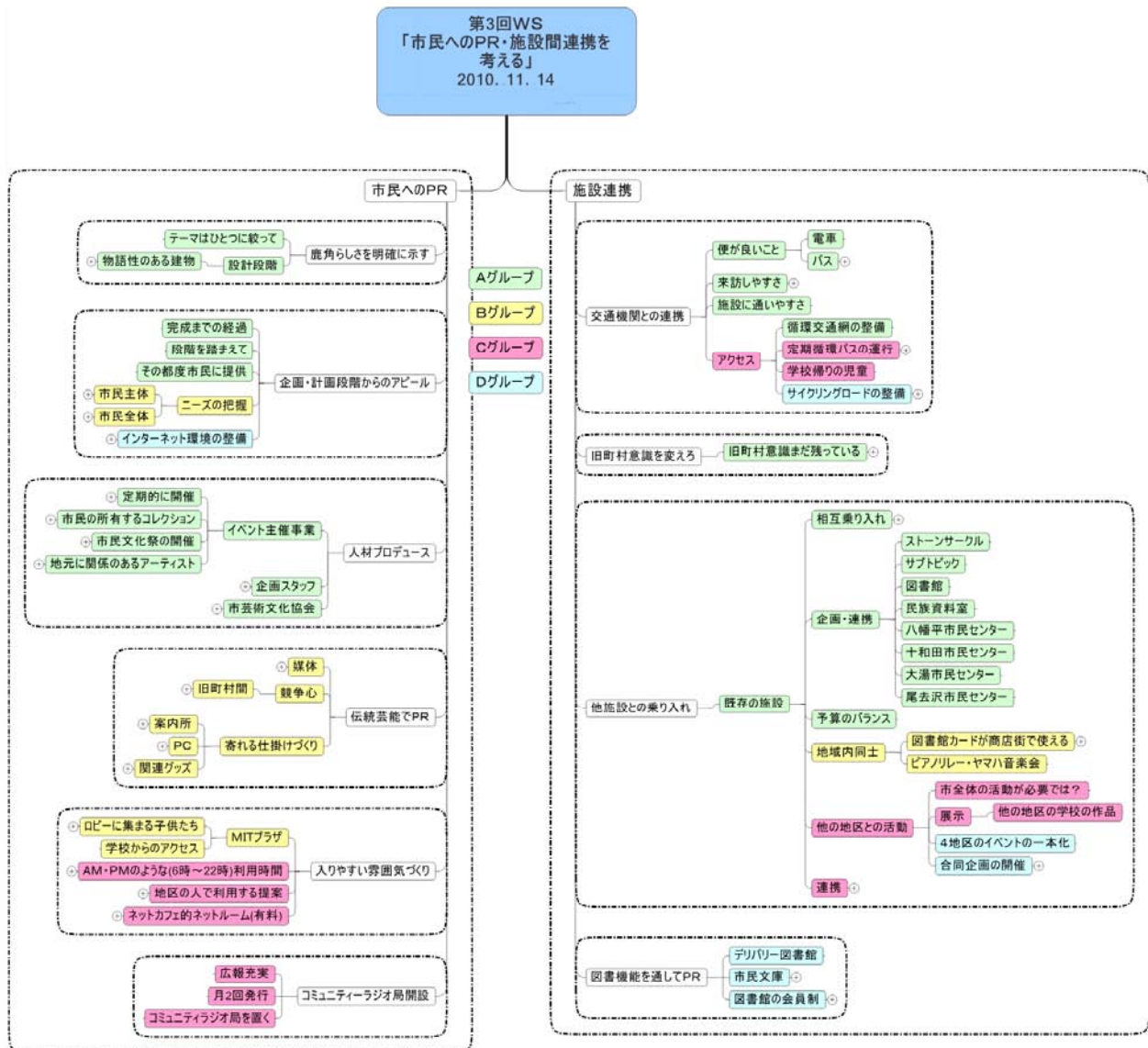
1. 市民へのPR

- ① 鹿角らしさを示す
 - ・テーマを絞って
 - ・物語性のある建物（鹿角の祭り、八郎太郎、熊をモチーフなど）
- ② 企画計画段階からのPR
 - ・経過情報をその都度市民に提供
 - ・市民組織をつくり、成長していける施設づくり
 - ・ニーズの把握（各自治会、各家などのアンケート）
 - ・インターネット環境の整備
- ③ 人材のプロデュース
 - ・企画スタッフの養成
 - ・企画の年間計画の立案
 - ・市芸術文化協会（文化活動のまとめ役）
- ④ 伝統芸能でPR
 - ・地域の競争心を刺激する（旧町村単位のコンテスト、伝統芸能）
 - ・立ち寄れる仕掛けづくり（案内所、大型観光絵図）
 - ・関連グッズの開発（鹿角出身著名人、観光資源など）
- ⑤ 入りやすい雰囲気づくり
 - ・利用しやすい開館時間
 - ・地区の特徴を演出（八幡平、花輪、尾去沢、十和田の部屋など）
 - ・ネットカフェ的空間（ネット環境の充実、プリンター設置、HPの充実）
- ⑥ 広報体制の充実
 - ・コミュニティラジオ局開設
 - ・タウン誌発行

2. 施設連携

- ① 交通機関との連携
 - ・バスの活用（巡回バス、ルートの見直し、イベント時に臨時便、定期バスの運行）
 - ・交通弱者の安全な移動手段確保（サイクリングロードの整備など）
 - ・旅行者の利用方策検討
- ② 旧町村単位の意識を変える
 - ・行政による解消の取り組みに期待
- ③ 他施設との連携
 - ・企画連携（図書館、民俗資料館、ストーンサークル、各市民センター）
 - ・図書館カードが商店街で使える、割引制度
 - ・学校との連携（文化祭、作品展など）
 - ・教育委員会との連携
 - ・図書館連携（デリバリー、本の寄付、持ち寄り制度など）

第3回ワークショップ 市民へのPR・施設連携検討結果整理図



V. 各施設機能

各施設機能について施設毎にグループで分担し検討しました。検討の結果は次のようにまとめることができます。

1. 図書館（Aグループ）

① 規模・機能

- ・ 図書館の床面積は基本計画では 1,700 m²に満たないが、2,000 m²ぐらいは欲しい
- ・ 学生がゆっくり学習するスペースの整備（仕切り等の配慮も必要）
- ・ ゆっくりと読書できるように机、椅子、ソファ等を設置
- ・ 児童向けに読み聞かせ、児童開架等を設置し、子供が読書をしやすい環境を整備
- ・ 小学校、幼稚園に移動図書館を派遣し、子供の読書意欲の向上を図る
- ・ 子育て世代の人との交流が児童図書を媒介に出来るのでは（子育て支援施設を隣接させる等）
- ・ 子供たちが賑やかにしてもその音が漏れない（閲覧している人には聞こえない）ように
- ・ 図書館関係者の会議、文芸講演会ができる会議室もしくは小ホールを整備（複合施設内に）
- ・ 自由に利用できるパソコンを複数台設置（施設内で無線 LAN の使用が可能）
- ・ 郷土に関する資料、地元新聞の回覧のコーナーの設置及び保存

② 読書環境等

- ・ 鹿角らしさ、シンボルになるような外観、資源を活かした建築（鹿角の杉を利用する等）
- ・ 屋上緑化や花壇の設置による安らげる雰囲気作り
- ・ 他地域の人、旅行者等が訪れやすいように花輪駅、八幡平駅での宣伝、絵地図の設置
- ・ 蔵書が少ないので寄付を募る（蔵書を保管、管理する設備が必要）
- ・ 開架(本棚)の幅や高さは障害者や車椅子に配慮したものにする
- ・ 移動はエスカレーター、エレベーター、スロープ等の設置
- ・ 和綴じなど貴重な本を保管する空調完備の小さな部屋が必要
- ・ 本を読むときに暗くないように採光を良く考えて欲しい
- ・ 吹き抜け等を設け、開放感が欲しい
- ・ 図書館は静かであるべきで、市民の交流を目指した複合施設に必要なのか（他の土地に建てる）

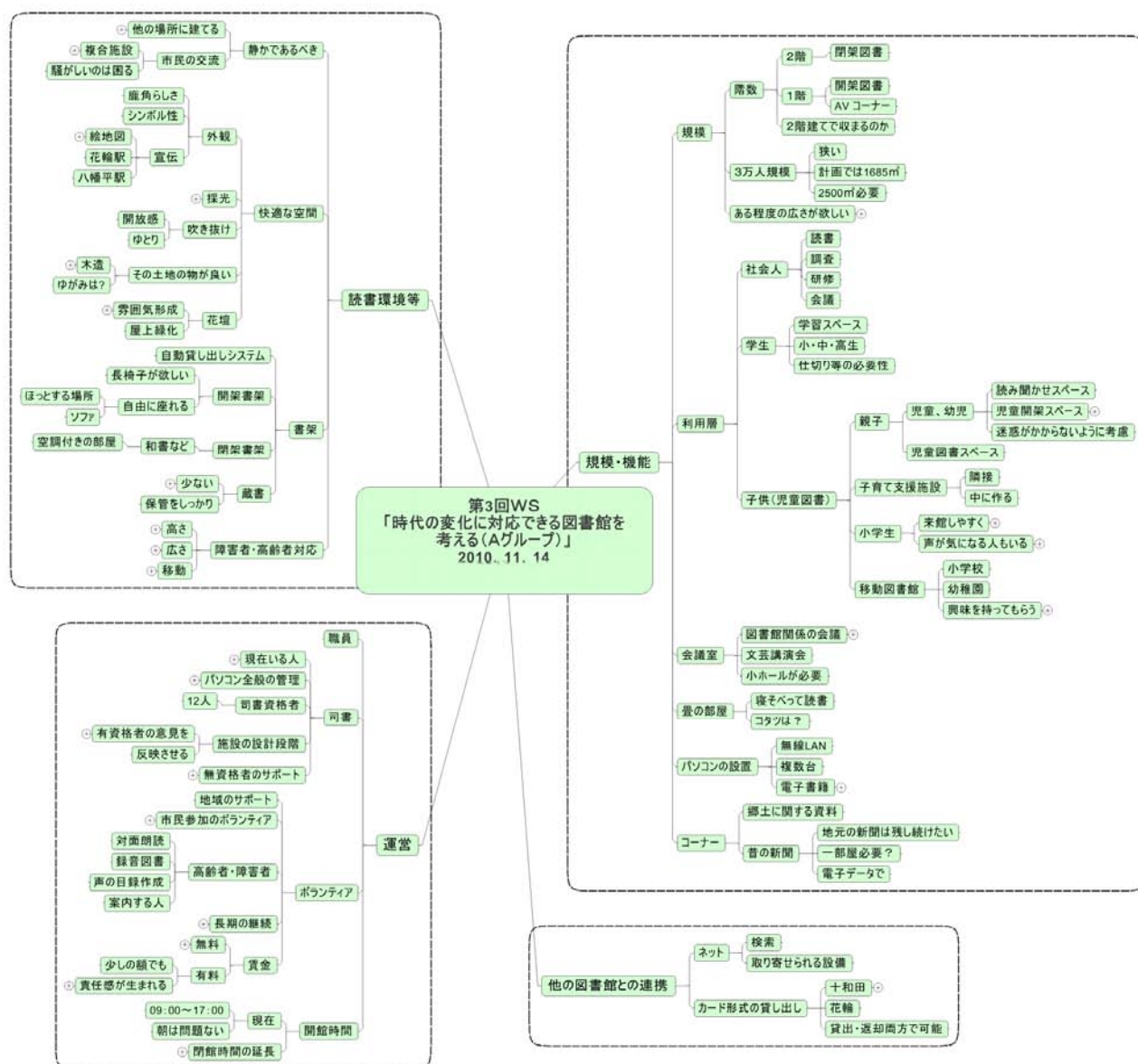
③ 運営

- ・ 司書の有資格者が3人以上必要
- ・ 司書以外の臨時職員は1年交代では経験が蓄積されないので、継続して採用出来るようにする
- ・ 無資格者が司書資格をいずれは取得できるようなサポート体制の構築
- ・ パソコンやインターネット全般の専門的知識を有する職員の配置
- ・ 施設の設計段階から館長・司書等の有資格者から意見を取り入れ、反映させる
- ・ 開館時間は少々遅くてもいいが、勤め人も利用出来るように閉館時間を19時～20時にする
- ・ 21時まで開いている市民センターとの連携はできないか（図書館の閉館時間も21時に）
- ・ 早い段階からのボランティアの養成が必要
- ・ 地域のボランティアが気軽に参加できる運営が必要（毎日ではなく何曜日だけ等）
- ・ 無償ボランティアは最初はいいが、継続が大変なので有償であれば長続きし責任感も持てる
- ・ 対面朗読、録音図書、声の目録作成、案内をする人等、利用者への配慮が必要

④ 他の図書館との連携

- ・ 十和田図書館等との分担、役割の明確化（イベントのとき等）
- ・ ネット検索、蔵書の取り寄せなどの整備

第3回ワークショップ 図書館に関する検討結果整理図（Aグループ）



2. 文化ホール（Bグループ）

① 空間構成

- ・ 700席を確保したい
- ・ ウォールカーテン等で半分に仕切り、別々な用途で利用出来るようにする
- ・ 多目的に使えることを前提に、スポーツや踊りに対応できるように（バスケット、卓球等）
- ・ 利用率が上がるように座席を固定席にせず、可動できるものにする
- ・ 地下に座席を収納する
- ・ 可動式椅子には難があるように思う
- ・ 由利本荘市の可動式座席を参考にしたい
- ・ 満席になるのは小学校の音楽祭など年数回
- ・ いま現在の活動でも満席になる機会はもっと多いのではないか？
- ・ 客席を扇型でどの席からでも見やすいようにする
- ・ 前方が観やすい傾斜つきに
- ・ 2階席も欲しい
- ・ 中央に相撲の土俵やリングを設置出来るような360°の座席配置はどうか
- ・ 360°の座席配置であれば、スポーツセンターを使うべきだ
- ・ ステージは吹奏楽の最大人数50人に対応する広さを（花輪高校吹奏楽部：50人）
- ・ 音響、照明設備は充実したものを
- ・ 舞台装置の収納スペース(奥袖)をたっぷりと
- ・ 車椅子席の設置および配慮を
- ・ 男子トイレにもオムツ交換台を
- ・ スムーズな移動が行える通路幅の確保を
- ・ 土足利用を前提に清掃管理がしっかり行えること（衛生維持）

② デザイン

- ・ 内装は飾りを入れずシンプルに
- ・ コスト面で可能であれば、地場産の木材を使ってほしい

③ にぎわいづくり

- ・ 市内には映画館が無いので3D映画も上映できる設備を
- ・ 地元における芝居や演劇サークルの活動を促進できる充実した設備を
- ・ フリーマーケットに対応できるようにならないか

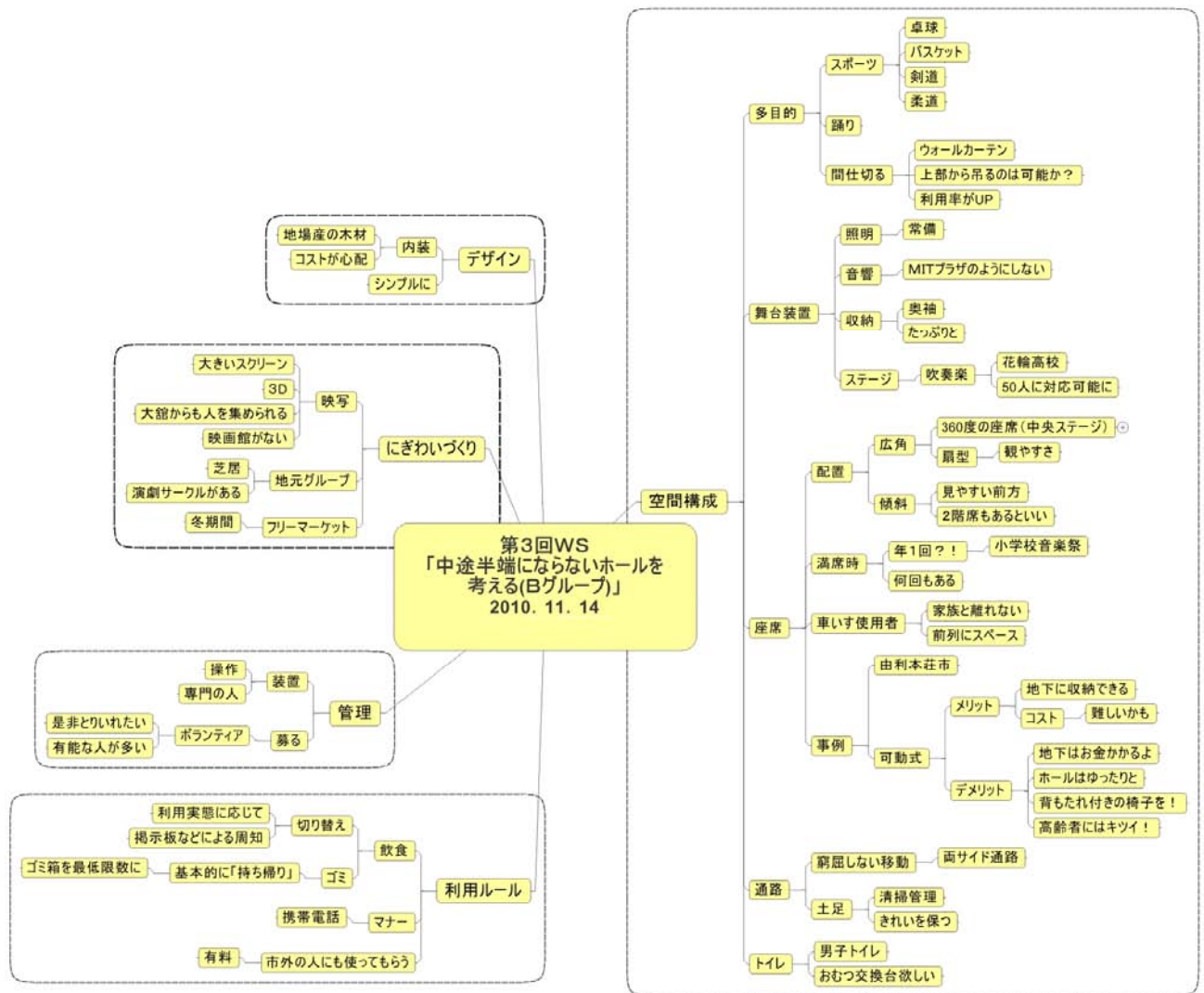
④ 管理

- ・ 舞台装置の操作には専門の人を配置する
- ・ 住民からボランティアを募って運営する方法もある（有償ボランティア）

⑤ 利用ルール

- ・ 館内の飲食についてはしっかりしたルールを（ホール利用用途によって切り替えを図る等）
- ・ 原則的に、ゴミの持ち帰りをルールとしていく
- ・ 携帯電話の利用スペース
- ・ 市外からの利用に対するルールづくり（利用料等）
- ・ 掲示によるサインが必要

第3回ワークショップ ホールに関する検討結果整理図（Bグループ）



3. 子育て支援施設（C グループ）

① 空間構成

- ・充実した事務スペースの設置
- ・職員のスペースと子供たちが遊ぶところはきちんと間仕切りして欲しい
- ・透明性を用いた間仕切りをすることで、職員の目が届くような作りがいい
- ・専用の会議室の設置（利用者の相談内容が漏れないよう遮音に配慮してほしい）
- ・騒ぐスペースと静かなスペースの間仕切りをしてほしい
- ・育児サークルの活動や将来的な病児保育のための部屋が1つ、プレイルームとは分け、少し離れた場所に設置してほしい
- ・十分な部屋数と広さ、トイレなどの設備、子育て世代に適應出来る相応のつくり
- ・授乳室の設置
- ・ミルクをつくるスペース
- ・おむつ替えのできる部屋
- ・幼児用の洗面所、便器の設置
- ・プレイルームの設置の仕方によって遊びの仕方が決まってくるので、どういう遊びの機能が可能であるのかを明確にしてから、プレイルームのデザインに反映したい
- ・ハイハイのできる安全面に配慮したスペース
- ・危険ではない、フリー(ロック)クライミングができる廊下や壁の利用ができないか？
- ・ホールのイベント時や図書館で静かに本を読みたい時にファミリーサポートセンターで子供を預かる十分なスペースの確保
- ・ホールや図書館と隣接、連結したつくりにし、お子さんを預かるサービスをスムーズに提供できるように十分な遮音に配慮したつくりや配置にすることが必要
- ・ベビーカーや老人でもアクセスしやすい駐車場との関係と出入り口の設置場所
- ・天候に左右されないような出入り口の設置
- ・バス停と入口をスムーズにしたり、屋根付きの回廊でつないだりしたい
- ・子育て世代の人、誰もが利用しやすくなるような配置の場所を考えた設置
- ・なるべく段差が無いように配慮したつくりにしてほしい
- ・施設の機能を考慮した共有設備と共有空間
- ・いろんな人の意見を聞くことも大切だが、いま従事している職員が集まって意見を交わす機会を持ち、設計につながる話をだす
- ・鹿角市の目玉の施設として、子育て世代も集える施設になるためにはその拠点が施設の中にあつた方がいいし十分に機能を発揮できるつくりがいいのでは？
- ・複合施設はそれぞれの施設がどう上手くやっていくかが大切で、早い段階から管理者は誰がどのようにやるのか考えていかなければならないし、開館後を想定した共有スペースの配置場所や目的も十分考慮しなければならない

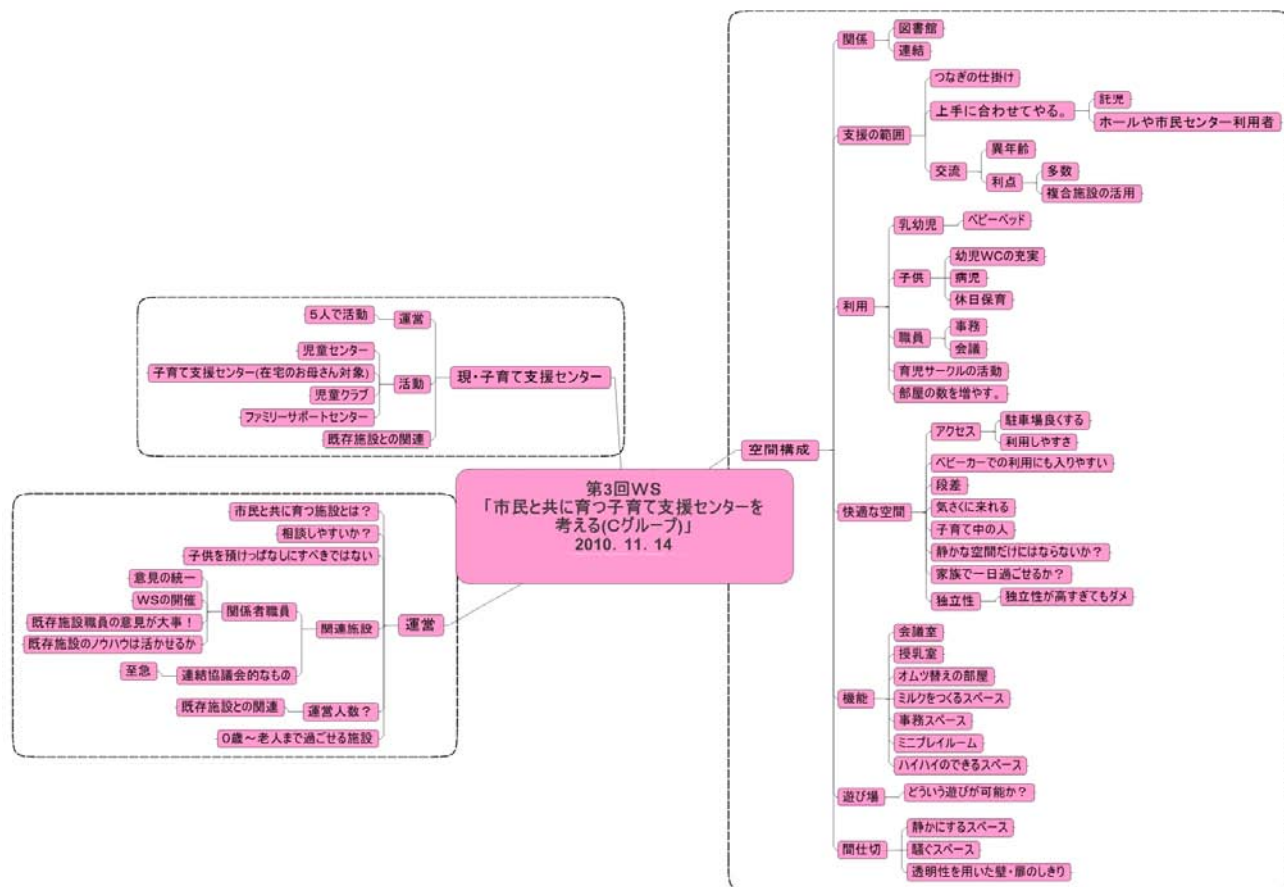
② 現・子育て支援センター

- ・既存施設の不自由さや不満な点などの改善、スペースや広さなどは、現・子育て支援センターから学ぶことができる

③ 運営

- ・コミュニティラジオを運営に生かしていきたいのでコミュニティラジオブースの設置

第3回ワークショップ 子育て支援センターに関する検討結果整理図（Cグループ）



4. 各施設をつなぎ交流を促す空間（Dグループ）

① 交流広場

- ・無理に交流を前提とせずに、来た人達の中に自然に交流が生まれることを目指す
- ・訪れやすく、居心地が良い施設
- ・屋内の壁にレリーフを埋め込む、壁を活用してロッククライミングが出来るようにする
- ・子供が裸足で遊べる柔らかい床のスペース、収納が出来る大型室内遊具
- ・子供達が携帯ゲームを遊ぶスペース
- ・フリーマーケット、仮設のミニ舞台で発表出来るイベントスペース
- ・ギャラリーは市の収蔵品、市民の作品、子供の作品の展示を
- ・朝から夜遅くまで使え、待ち合わせが出来るスペース
- ・図書館の新聞を配置し、閲覧用ベンチを設置
- ・施設全体の総合案内、観光案内の設置
- ・市内施設、各市民センターを紹介する掲示板やコーナーの設置
- ・イベントのお知らせや地域ニュースを配信できる大型モニターを設置
- ・チャレンジショップ、カフェの設置
- ・気軽にお茶会が行なえる畳スペースの設置
- ・施設内にリサイクル制度を設け、環境に配慮しながら施設を利用する
- ・男性用トイレにオムツ交換台を設置して育児に参加しやすい環境をつくる
- ・市民活動スペースを設け、様々なサークルが利用できるようにする
- ・屋内公園や噴水、大きな水槽を設置
- ・ガラス貼りのミーティングスペースの設置

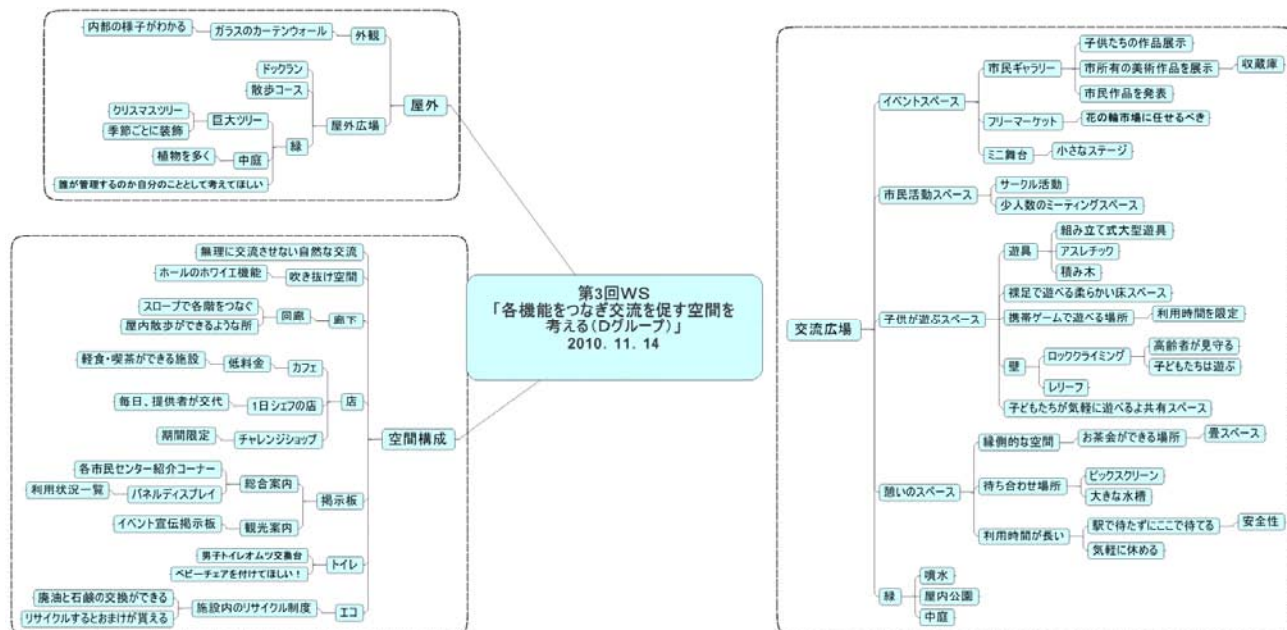
② 空間構成

- ・外から施設内の様子がわかるような大きな窓
- ・屋内駐車場もしくは地下駐車場をつくる
- ・天候に左右されない広場の設置
- ・吹き抜け、スロープ状の回廊など明るくて開放的なスペース
- ・内部空間は壁が少なく広々とした構成
- ・廊下を無くし空間で各施設をつなぐ
- ・通り抜けるスペースではなく集まれるスペース

③ 屋外

- ・施設を一周できる散歩コースの設置
- ・ドッグランを設置
- ・敷地内の庭には季節を楽しめる植栽
- ・芝生広場と花見ができる緩やかな丘をつくる
- ・起伏のある屋外広場をつくり子供達がそり遊びができるようにする
- ・小川や池をつくる
- ・シンボルツリーを植えてクリスマスなどのイベントにつなげる
- ・囲いの代わりに桜やドングリの木などを植樹する
- ・敷地外から広場が見えるような工夫
- ・子供達が遊べるよう広場に遊具を設置
- ・ピクニックができるような芝生の広場

第3回ワークショップ 交流空間に関する検討結果整理図（Dグループ）

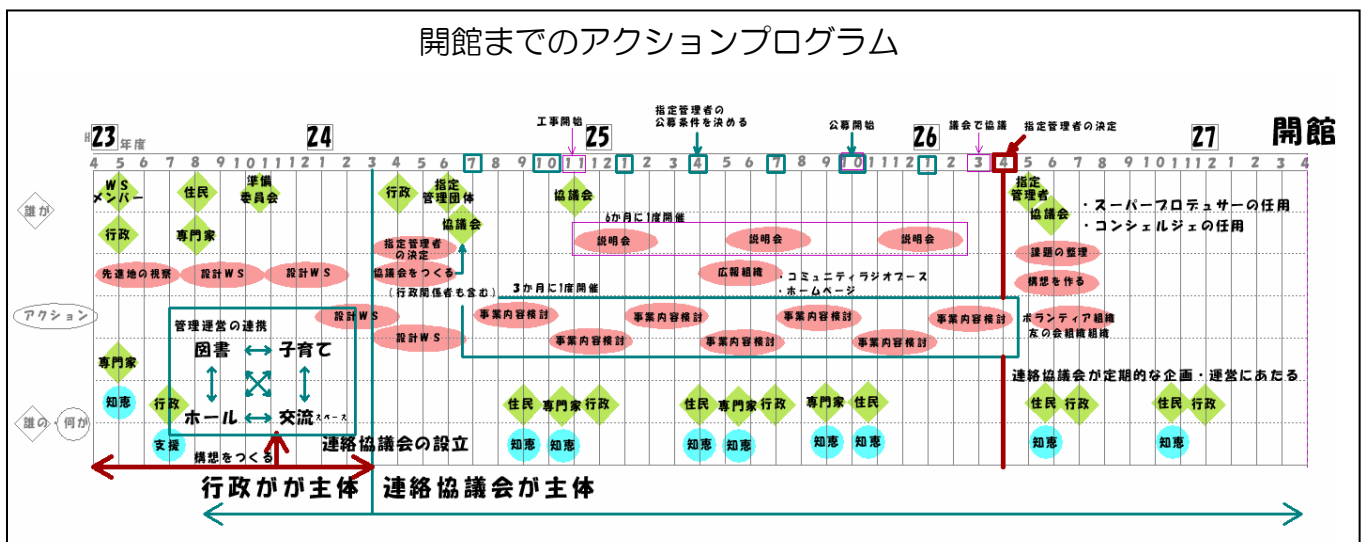


② 一元的管理

- ・ 全体の利用状況はＩＴシステムを活用し一元的に管理する
- ・ 既存施設のイベント、空き室状況等もすべてこの施設で分かるようにする
- ・ 広報活動は一括して行う（ポスター、ニュースの発行、ホームページ管理など）
- ・ コミュニティラジオを立ち上げ、独自の活動を行う（ボランティアの活用）
- ・ 施設全体、鹿角市の観光等にも精通した博識なコンシェルジュを任用してサービス向上を図る
- ・ ボランティアを積極活用するために、施設で一括して体制を整える
- ・ 他施設の情報を積極的に受け入れ発信する（イベント、市民の声、展覧会、講演会情報など）
- ・ イベント参加申し込み、託児依頼なども一括して受け入れられる窓口の整備
- ・ 共有スペースの管理（交流スペース、ギャラリー、喫茶コーナーなど）
- ・ 設備などの管理（物品管理、駐車場、清掃、空調）

③ 開館までのアクションプログラムと開館後の運営について

- ・ 23年度は、ワークショップメンバーが協力しながら、市が主体的に設計確定までのワークショップ運営と連絡協議会設立のための準備委員会をつくる
- ・ 先進事例の視察を行い、有識者の知恵を借りながら施設への理解を深め、鹿角独自の運営方法を探る
- ・ 既存他施設との連携システムと棲み分けを明確にする
- ・ 24～25年度は、設立された連絡協議会を中心に、組織体制の検討（人員配置、役割など）、運営のためのルールづくりを行い、定期的な会の中で有識者の知恵、住民の意見を反映させる
- ・ コミュニティラジオの立ち上げ、ホームページの運用、ニュースの発行など市民の協力を得ながらスタートさせる
- ・ 工事経過、協議会運営などニュースを発信し市民の理解を得る
- ・ 工事現場見学など、市民ワークショップを実現し市民の関心を喚起する
- ・ ボランティアの募集、スキルマスターのための講習会などを開催する
- ・ 26年度は、開館準備の年にあたるので、スーパープロデューサー、コンシェルジュの任用を図り、連絡協議会を中心に具体的なスケジュールリング、開催イベントなどの協議にあたる
- ・ 開館以降は、連絡協議会を中心に施設全体の運営を図る



各施設の運営について施設毎にグループで分担し検討しました。検討の結果は次のようにまとめることができます。

- ・蔵書の充実のため、市民から本を寄贈してもらい司書やボランティアが選書し充実させていく
段階的な蔵書の募集（現在図書館にない本、住民で共有したい貴重な本）
 - １．ある程度の人選とジャンルを限定して募集（急に大量に寄贈されても選別、管理に困る）
 - ２．ジャンルを絞って広く一般に募集（段階的に計画して募集する）

- ・集まった蔵書の管理をどこにするのか（運搬しやすいように近場に設ける）
- ・施設の設計段階から館長、司書等の有資格者から意見を取り入れ、反映させる
- ・基本設計や実施設計の段階で地域住民との意見交換等、流れを提示してほしい
- ・とにかく図書館の場合は人材を得ないとうまく運営できないので早い段階から司書と臨時職員の養成、研修を考えるべき
- ・図書館を含めて施設全体を統括するプロデューサーが必要
- ・ボランティアによる委員会の設立（司書で賄いきれない部分の運営・管理を依頼）

対面朗読、録音図書、声の目録作成、案内をする人等

- ・館内の清掃は行政がシルバー人材センターに委託
- ・利用者の増加を図る（目標として2万人から6万人へ増やす）

- ・子育て支援施設、ホール等との連携（児童図書等）
- ・夜遅くまで開館し、社会人も利用をしやすいとする



2-2 文化ホール（Bグループ）

23年度

- ・早い時期から行政が住民に参加を呼びかけ会合を開く
- ・会合と並行して専門家、企業の意見を聞きながら検討していく
- ・住民の参加を得るための方策を考える必要がある
- ・聴講チームづくり等により住民の参加負担を軽減する
- ・工事着工時まで継続して住民、専門家、企業の意見を聴講していくことが大切である

24年度

- ・鹿角市では運営形態について次の3つがある
図書館のように行政が関わる市による直営
住民が関わっている市民センターのような民営
アルパスのような企業による運営
- ・行政が管理運営した場合は資金面に問題はないが、職員の給与が高くコストが高くなる
- ・住民が管理運営した場合は、組織および資金力が弱いコストが安くなり、いろんな住民が運営に参加することで発想力が行政に比べ優れている
- ・企業が管理運営した場合は行政よりはコストは安く、専門性もあるが採算重視のため継続しない場合がある
- ・構想づくりとして3つの運営形態について住民（住民団体およびグループ）の意見を聞き、出された意見について課題を整理し、情報を市民に開示する
- ・情報の開示と並行し、行政への要望をおこなう
- ・管理運営先の決定は最終的な住民の合意を得ることを必要とする
- ・管理運営先は24年度中、工事着工前には決定する
- ・行政が資金を出す関係上、管理運営について行政の関わりは外せない
- ・住民の場合は完全にボランティアは難しいので、有償が望ましい
- ・ホールは鹿角市では初めての施設なので、直営でやるのか指定管理で住民もしくは企業がやるのか管理運営先の選定が重要

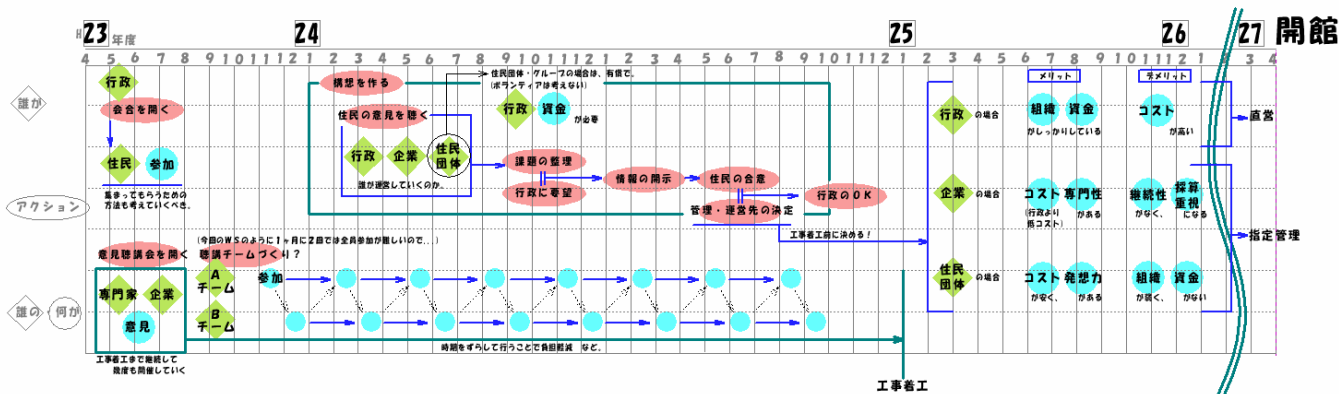
鹿角市 文化交流の杜プロジェクト 管理・運営アクションプログラム

プロジェクト名

B
ホール

キャッチコピー

（鹿角市における「新規」の施設なので）
管理・運営先の選定が大事！！



開館までの準備

- ・子育て支援センターが、スタッフと利用するお母さんたちの知恵を得るため、話し合いをもつ
- ・話し合いにより、新たなる組織構成の提案、企画などをする
- ・実行委員会をスタッフ、お母さん、ボランティア、行政でつくる
- ・他の施設でも実行委員会をつくる
- ・実行委員会の活動のPR、活動への参加募集をする
- ・運営の人員体制、開館時間についても検討
- ・各施設の代表者会議により他の施設との関連性検討とルール決めをするが、代表者会議は複数開催し、各実行委員会で繰り返し話し合う
- ・代表者会議や実行委員会の話し合いにより、行政への提案が生まれ、ハードとソフト両面の内容の具体的検討により、設計へ反映させる

- ・子育て支援センターとしては、新組織体制として正規、パート、ボランティアの人数や位置づけ、子育て支援の機能、施設の行事、他のイベントのときなどに合わせた託児体制の人事管理をする必要がある
- ・全施設でタイムスケジュールを共有し、ニュースを発行したり、HP を充実させる
- ・子育て支援ではイベント、サークル育成、講演会などを企画、PR して参加を促す
- ・子育て支援の機能を花輪地区だけではなく市全体へ PR する活動も必要
- ・全体としては一元的管理するコンシェルジュ機能を有する存在が必要になってくる
- ・コンシェルジュの仕事内容の検討も必要で、この機能の内容や監督範囲によって人数や兼職で行うかなどいろいろかわってくる
- ・コンシェルジュはこの施設の顔としてそれぞれの施設案内や機能についても説明できるような仕事内容ができないか？
- ・使われていない施設が出てきたときに施設の効率的利用を目指すために、全施設管理をコンシェルジュができないか？
- ・コンシェルジュは各施設の代表者同士で交代し循環するシステムにできないか？



2-4 各施設をつなぎ交流を促す空間（Dグループ）

23年度

- ・基本設計の早い段階で行政とワークショップのメンバーが中心となって先進地の視察を行う
- ・市民を対象に説明会、学習会を開催し話し合う機会を設ける
- ・進捗状況、会の様子を伝えるニュースを発行し、参加していない人に周知する
- ・基本設計案を説明し、住民の合意を得て実施設計に入る

24年度

- ・実行委員会を早く組織し、3か月に1回は構想を検討する会議を行い、半年に1回は住民説明会を行う
- ・全体を一括してではなく、既存の施設を管理している団体に協力してもらえるようにそれぞれの機能ごとに管理運営を行う
- ・全体を管理する組織を設置し、それぞれの管理運営団体から参加することにより連携を図る

25年度

- ・カフェテラスの提案があったが、テナントを募集するにあたって行政と実行委員会が中心となり条件や出店の募集や管理者を決める
- ・建設工事開始以降、年に3回程度現場見学会を開き住民に参加を募る
- ・工事期間が長いので熱意が下がらないように2～3か月に1回は定期的にニュースを発行する
- ・出店募集をする前に商工会の方への学習会を開き、理解と協力を求める
- ・基本設計、実施設計の段階では行政が主体となるが、24年度以降は実行委員会が主体となって検討や企画を行う

26年度

- ・26年度当初には管理者を決定する
- ・テナントは開館半年ぐらい前から研修期間を設ける

鹿角市 文化交流の杜プロジェクト 管理・運営アクションプログラム

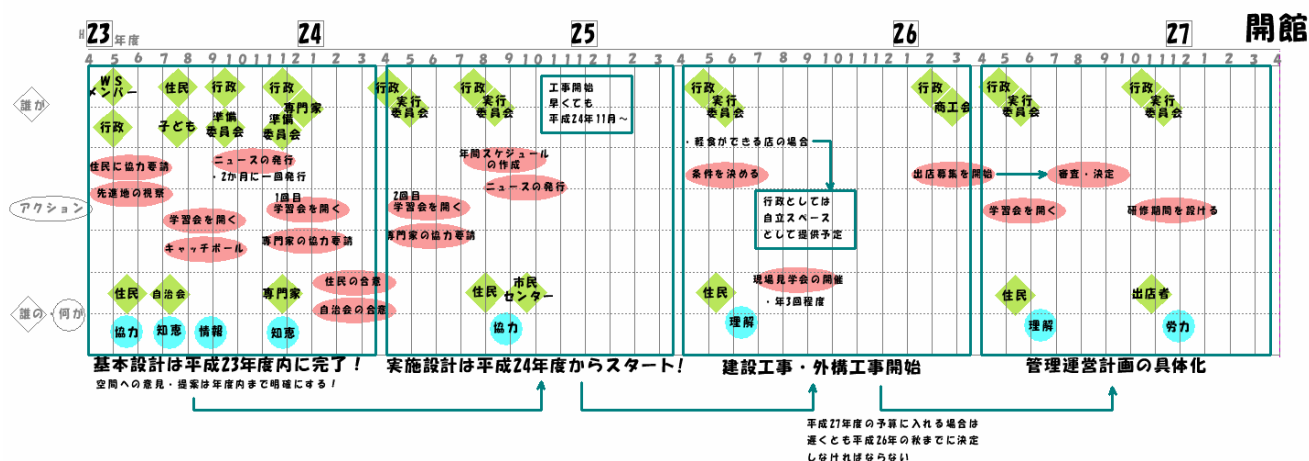
プロジェクト名

D 班

キャッチコピー

自然に交流が生まれる空間

各機能をつなぎ交流を促す空間



VII. まとめ

ワークショップにご参加いただいた皆さまに心よりお礼申し上げます。お疲れさまでした。2か月にわたり全4回ワークショップを行いました。毎回時間を忘れるような熱心な議論が交わされ、数多くの意見、提案をお寄せいただきました。

初めてワークショップに参加された方も多かったと思いますが、改めて報告書としてまとめられた内容を見ると大変充実したものであることが分かります。今回のワークショップの目的は設計プロポーザルにおける提案書の募集に向けて、市民の皆様の様々な意見を伺うことにありました。出された多くの意見は必ずしも一致を見たものばかりではなく、相反するものもありました。現実的なものから、夢のようなものまで様々です。これらを取捨選択し、最も鹿角市に相応しいプログラムで、具体的な形にまとめられる設計者の出現に期待したいと思います。

施設の具体的な実現に当たっては、設計者が決まってから、提案に対しての意見交換があり、皆さんの思いが少しでも反映される形で進められれば、この地域に相応しい施設ができると思います。地域商店街との関わりや新しい町並みの構成、駅舎との関係など十分に議論されない部分もありました。実際の設計過程の中でさらに活発な意見の交換ができるのではないのでしょうか。

こうした施設は、完成後の管理や運営で、行政や市民の力量が問われます。運営等においてボランティアや様々な市民組織が主体的に関われる施設であって欲しいものです。そうした意味で、今回のワークショップ参加者が得た経験は大きいと思います。ワークショップの手法を活かして、市民の皆さんの知恵を集め、多様な人がつどい、話や、笑い声、様々な色彩、音が溢れる生き活きとした場をつくっていただきたいものです。

これから、施設がオープンするまで、そのプロセスの折々に、私も皆さまと一緒に引き続きこのプロジェクトを見守ってまいります。

(仮称) 学習文化交流施設検討委員会委員長
みんなで文化交流の杜をつくる会・ワークショップコーディネーター
東北工業大学工学部建築学科教授
谷津 憲司

VIII. ワークショップを終えて（アンケートから）・ワークショップ参加者

ワークショップを終えて 参加者のアンケートから(要約)

- ・いろいろ勝手な意見があったが、基本設計の段階で各班の擦りあわせが出来るとうい。
- ・運営に当たって、やはり人が鍵になると思う。
- ・図書館は法令に従って市が経営することだが、市民センターは地域づくり協議会との折り合いをどうするか。
- ・今後の利用を考えると市民の言葉をいかしていける大変よい場だったと思います。
- ・とても楽しかった、の一言につきます。回を重ねるごとにむずかしくなって頭が疲れましたが、参加させて頂いたことが貴重でした。
- ・はじめは、意見が反映されるか心配でしたが、いろいろ話し合うなかで市のことを考えることができ、有意義だと思えました。
- ・ワークショップで出た意見を必ず反映させてほしい。
- ・全体的に話し合う時間がなかった。色々な意見で対立的であったり、無理な点であったり論議する時間を確保してほしい。
- ・果たしてこのWSで話し合われた事が本当に活かされるのでしょうか。
- ・市民の意見を聞くだけでなく、町の中心でもある商工会や商店街の人たちの意見も聞くべきではないでしょうか。
- ・商店街の方たちに合わせるためにも会の時間を検討するべきでは(現に商工会青年部の人たちが全く参加していなかった)
- ・この会が只の「パブリックコメントを聞いた」という証左にならない事を切に願います。
- ・これから出来上がる新しい施設に関わることができてとても有意義な時間をすごすことができました。とてもワクワクしました。
- ・今とてもお世話になっている子育て支援センターがバージョンアップされることを希望します。
- ・この後も機会があればこのような会議に参加できればと思っています。
- ・骨子ができていると聞いたが、提案出来てありがたい。話し合いを積み重ねて来たが、どの程度取り入れられるのか疑問。
- ・4回、長時間かけて出された意見をただ「出す」だけで終らず、必ず活かしてください！！
- ・市民センター部分については協議会でたくさん意見も出され、スペース面については反映されると思いますが、運営面では不安もあります。
- ・私の属する班の方々はホール運営を花輪地域づくり協議会に任せるべきという意見であった。
- ・運営については、実際携っている者同士で意見を交わせる機会を持ちたい。

参加者名簿	Aグループ	Bグループ	Cグループ	Dグループ
市 民 参 加 者	武石 佳久	阿部 利千子	金澤 麻耶	松浦 直哉
	高木 豊平	海沼 知子	石坂 千雪	柳館 清典
	柳沢 愛子	湯瀬 正子	戸沢 綾子	成田 由希子
	沢田 欣之	湯瀬 誠二	米村 幸子	安保 恵里
	大里 恵子	高橋 実	小田島 正一	玉内 侑希
	猪股 俊彦	加藤 博幸	阿部 友美	
東北工業大学大学院生	小原 希望	長尾 良太	成田 香澄	佐藤 匡倫

